



2022 年度第 4 回理事会



議 事 録




一般社団法人 日本クレー射撃協会

2022年度 第4回理事会

議 事 録

1. 日 時 2022年8月2日(火) 13時00分～
2. 場 所 JAPAN・SPORT・OLYMPIC・SQUARE 3階 会議室8
3. 出席者 出席理事17名、出席監事3名
会 長 不老 安正 (福 岡)
副会長 江野澤 吉克 (千 葉)
" 橋本 聖子 (一)
" 夏樹 陽子 (一)
専務理事 畔蒜 均 (千 葉)
常務理事 渡辺 久雄 (栃 木) * 競技委員長
" 柏木 孝則 (三 重) * 審査委員長
" 梅津 宣弘 (福 島) * 強化委員長
" 中園 功一 (鹿 児 島)
理 事 菊本 哲也 (東 京) * 総務担当理事
" 岩尾 美和子 (和歌山) * アンチ・ドーピング担当理事
" 谷本 歩実 (一) * アスリート委員長
" 本山 浩一郎 (神奈川)
" 丸石 博 (島 根)
" 清水 光一 (本 部)
" 本戸 歳知 (埼 玉)
" 小高 左起子 (一)
監 事 相馬 正 (青 森)
" 瀧根 隆幸 (富 山)
" 藤沼 弘文 (岩 手) WEB

(欠席理事) 小川晶子、ヒロミ

4. 陪 席 坂本 強 (事務局長)
大江 直之 (事務局アドバイザー)
齊藤 知子 (本部事務局)
篠原 将門 (事務局・強化本部次長)
宮内 榮子 (橋本副会長秘書)

5. 理事会定足数確認

本理事会の定足数について、理事総数19名中17名の出席となり、定款第43条の規定により過半数以上の理事が出席しているため成立したことを事務局より報告。なお、監事については監事3名全員が出席。

6. 議事録署名人確認及び開会挨拶

事務局より出席理事・監事の紹介があり、定款第42条に基づき不老会長が本理事会の議長を務める旨説明。

議長より、本理事会の議事の経過を議事録とし議事録署名人については、定款第47条に基づき、議長と出席している監事3名となる旨説明。

また、審議に先立ち、江野澤副会長議長より出席理事各位に対し、開会挨拶と議事進行に際しての協力依頼があった。

7. 誓約事項唱和

畔蒜専務理事より誓約事項を唱和。

8. 審議事項

(1) 理事・監事宛てアンケートについて

事務局より報告説明。

高橋名誉会長と橋本副会長間で、競技生活を終えて選手の処遇について（セカンドキャリア）に関する意見交換があった。これまでに理事会において選手のセカンドキャリアについて協議したことが無いため、今後の方針について原案作成に着手したい。まずは理事・監事各位の意向を拝聴するためにアンケート調査を配付資料の通り実施したい。来る8月16日までにアンケートへ記入の上、本部事務局へ返送願いたい。

橋本副会長より補足説明。

高橋名誉会長との意見交換の中で、協会として若い選手方々のタレント発掘から始まり、選手強化に取り組んでいくと現代の若い世代のアスリートは、リアルキャリア、或はセカンドキャリアについて非常に強い関心を持っている旨を申し上げた。

クレ射撃は現役生活が長い競技であることから、従来はセカンドキャリアよりもリアルキャリアが優先されてきたようだ。これから若い大学生が選手として取組んでいくと同時にキャリアを築いていくときに、長い人生を考え、どのようにクレ射撃と向き合っていくのかということを考える必要があり、協会がどのように取り組んでいくか。まずは幹部方々にアンケートを取らせていただき、今後の選手強化に活かしていきたい。

私自身、JOCにおいて選手強化に取り組んできたが、セカンドキャリアは強化の一環であることをご認識願いたい。

議長が議場に確認し、理事・監事を対象としたセカンドキャリアに関するアンケート調査を実施することとなった。

(2) ワールドカップ韓国大会について

事務局より報告説明。

去る7月9～22日、大韓民国・チャンウォン市にてワールドカップ大会が開催され、永島監督、戸口選手の他、レフェリーとして渡辺委員長、柏木委員長が

参加した。成績は 119 点、惜しくも競射に敗れ決勝には進出できなかったが、国際大会 2 度目の参加でファイナル競射まで進めたことは評価に値する。

柏木委員長より説明。

大会へ参加した戸口選手は 3 年前から強化委員会のジュニア育成に学連選手として参加、とても短い期間で本人の努力は下より強化委員会の指導もあり、125 個撃ち 120 点の基準点をクリア。強化指定選手として現在認定されている。海外遠征初参加の WC アゼルバイジャンで 115 点を記録。2 回目の韓国で 119 点、今後更なる活躍が期待できる選手と考えている。

東京五輪ではトラップミックス種目が実施されたが、パリ五輪ではスキートミックス種目へ代わるが、ワールドカップ大会ではトラップミックス・スキートミックスの双方が実施されている。もう一つ、「チーム」という種目が増え、これは男子 3 名・女子 3 名の合計点で競われる。このため、大会日程が従来よりも長くなった。

チャンウォンはプサンからバスで約 1 時間と近いために移動負担が無いが、コロナ禍であるため受入空港がインチョンに限定され、バスで 6 時間掛けて移動した。戸口選手は移動に要する負担が大きい中で好成績を上げたことを評価したい。また、今回の経験をこれからの試合に活かしてもらいたい。

橋本副会長より質問。

現在、強化選手トップである戸口選手がワールドカップ大会等に派遣されているが、国際大会～国際大会までの間、どこで誰がどのような強化を行っているのか。

梅津強化委員長が説明。

現在、戸口選手と強化育成選手は通い合宿を実施し、伊勢原射撃場でコーチが付き 6 月までは練習していた。7 月以降は射撃フォームを確立するために、選手の射撃時のビデオ撮影を行い、体の動きができていないかチェックし、画像分析中心のトレーニングを現在は行っている。今後 JISS において画像分析を進めてもらい、体作りと練習強化を進めていく方向で取り組んでいる。

橋本副会長より意見。

JISS 内にプロジェクトチームを立ち上げてもらったので、医科学サポートや画像分析で是非活用いただきたいが、画像については世界のどこからでも送れる時代であることを鑑みれば、私自身の考えとしては、海外における強化ヘシフトした方がオリンピックに近いと思う。どうしても日本でやりたいと言うことが無ければ世界トップレベルの選手が射撃場でどのような練習をしているのか、目で見るのも強化だと考える。他のスポーツだとそのような視点になるのが普通と考える。

梅津強化委員長より説明。

学生選手がワールドカップを転戦することは初めてのことである。現在、永島コーチが外国コーチと折衝しており、海外で強化ができる方法を探っている状

況である。日本はバルセロナ五輪以降メダル獲得ができておらず、五輪選手を育てたコーチも居ない。今回戸口選手が記録した115点というスコアは素晴らしい。これまでの派遣選手ではMQS、トラップ112点・スキート114点をクリアできないケースが殆どだった。強化委員会では、戸口選手のスコアを今後どこまで上げられるかということが課題となっている。

映像撮影についても、今後JISSに協力いただき、選手本人の不足している部位の筋力強化などを通して体作りに傾注し、技術向上を模索しながら競技力向上を目指したい。

議長より説明。

次回の理事会へ強化委員会から活動報告を書類で提出していただく。理事会では現況が見えないので、マニュアル等を含めて強化委員長に説明していただく。改善すべき点があれば改善しなければならない。意見をいただいた橋本副会長にも活動報告を見てもらってアドバイスがあればお願いしたい。

(3) ブロック本部公式大会②(愛知)について

事務局長より報告説明。

去る5月14～15日、東海・北信越・近畿を対象としたブロック本部公式大会が愛知県総合射撃場で実施された。トラップ124名・スキート40名の参加があり、トラップ種目川井正巳選手(奈良)、スキート種目脇屋昂選手(佐賀)がそれぞれ優勝した。

(4) 夏季本部公式大会(成田)について

事務局より報告説明。

去る6月18～19日、夏季本部公式大会が成田射撃場で実施された。トラップ124名・スキート29名の参加があり、トラップ種目大前有希選手(兵庫)、スキート種目折原梨花選手(栃木)、両種目共に女性選手が優勝した。次号シューターズの表紙はこの女性選手2名の写真を掲載したい。

特に今回の大会は申込者が多く、枠数を増やしたが追い付かず抽選により漏れた選手が多数あった。

夏樹副会長より意見。

抽選により漏れた選手が居たと報告があったが、申し込んだ選手全員が参加することはできないのか。競技日数を2日から3日に増やすなど、改善方法は無いのだろうか。

事務局より説明。

当初トラップ種目90名にて募集を実施、参加希望選手が多かったため競技委員会と協議し126名、6組増やした。3射面使用し朝8時から夕方5時まで2日間ではこの人数が限界である。競技日数は現在土曜・日曜2日間で実施しているがこれを金曜・土曜・日曜の3日間とするとサラリーマン選手は出場が難しくなる。

このため、今年度より大会数を増やすことで補いたいと考えている。ブロック本部公式では対象ブロック選手を優先受付とし、できるだけ選手へ出場機会を与えよう

と考えている。

(5) ブロック本部公式大会③(那須)について

事務局より報告説明。

去る7月2～3日、関東ブロック対象としたブロック本部公式大会が那須国際射撃場で実施された。トラップ102名・スキート30名の参加があり、トラップ種目木村道正選手(栃木)、スキート種目脇屋昴選手(佐賀)がそれぞれ優勝した。

那須国際射撃場は全日本選手権スキート種目連覇の折原研二選手が経営する射撃場であり、本部公式開催は初めてである。大会前に射場整備にご協力いただき活性化する良い事例を作ることができた。今後、いろいろな射撃場を使用しながら普及活動に繋げていきたい。

(6) 上部団体等選出役員及び特別委員会について

事務局より報告説明。

前回の理事会において申し合せた通り、去る7月12日、不老会長、江野澤副会長、畔蒜専務理事、引き継ぎのため高橋名誉会長にお越しいただき、上部団体等選出役員及び特別委員会について打合せ会議を行った。協議の結果、配布資料の通りとなったので報告する。

◇上部団体等選出役員

JSP0	評議員 国体競技運営部会委員 全国スポーツ指導者連絡会議代表委員 全国スポーツ指導者連絡会議幹事	渡辺久雄 渡辺久雄 本戸歳知 坂本強
JOC	評議員 インテグリティオフィサー	清水光一 柏木孝則
WMG 関西 2021	兵庫県実行委員会委員	渡辺久雄

◇特別委員会

新規	コンパクト推進委員会 ガイドライン推進委員会 後援企業推進委員会	不老安正、中園功一 不老安正、江野澤吉克(畔蒜均) 高橋義博、橋本聖子、谷本歩実
既存	アスリート委員会委員長 医科学委員会委員長 コンプライアンス室長 資格審査室長	谷本歩実 *橋本副会長へ一任 柏木孝則 本戸歳知

議長が議場に諮りこれを了承。

(7) 公益法人移行について

事務局より報告説明。

各位も承知の通り、JSPO 加盟団体規程の改正に伴い、当協会の公益社団法人移行に関する手続きを現在、TMI 総合法律事務所（以下 TMI）、山田 & パートナーズ税理士事務所（以下 Y&P）と行っている。

去る 6 月 23 日、公益認定等委員会との面談により事業・諸規程・財務について指導をいただき、7 月 7 日、TMI・Y&P と今後の作業の進め方について打合せを行った資料を各位へ配布している。

現在理事会で承認されている 2022 年度事業計画を、普及振興事業・競技力向上事業・その他の事業の 3 つに区分し集約しているが、現在部会等に行っている助成事業について公益認定等委員会より指摘を受けたため、是正する必要がある。

また、これまで収益事業として扱ってきた検定・物品販売については、公益事業へ含めることも可能となる。但し、公益事業に含めると用途が限定されるなど様々な制約が発生し、自由な予算編成ができなくなる。TMI や Y&P からは、収益事業として申請する方向性を薦められている。

その他、現行の定款には基本財産に関する条項が無い。公益法人へ移行した場合、関係条項を設けることができるが、社団法人の場合は必ずしも設けなくても良いため、TMI や Y&P からは必然性が無ければ設けなくても良いとアドバイスがあった。

財務についても予算・決算の表示方法を変更する必要があると指摘があるが、詳細は配布資料へ ToDo リストを添付したので確認いただきたい。来る 9 月末頃には事務的作業を終えて提出書類を概ね揃える計画で進む予定。10 月から 3 月までの半年間を、公益認定等委員会からの指摘に伴う修正提出期間に充てており、今後進展や進捗等あれば再度理事会へ報告したい。

議長より補足説明。

本部事務局、TMI、Y&P から逐一、私へ報告をいただいている。

現在協会が行っている事業や業務を、公益法人へ移行するために変更する必要が今後出てくるであろう。TMI や Y&P のアドバイスをいただきながら事務局が現在公益認定等委員会へ提出する原案を作成している状況である。本日は途中経過を事務局から行ったが、ある程度進捗が纏まった段階で再度理事会へご報告申し上げたい。

(8) 全日本ランキングについて

事務局より報告説明。

現在の当協会ランキングは、年間を通じて記録した最高得点が評価され A・B・C ランク分けされている方式で、他競技団体が行っている全日本ランキングとは異質のものであった。

選手の励みとなるために 2 年前、当時不老副会長より岡山大会時に、他競技団体同様の全日本ランキングを作るよう提案があり、丸石博理事と 2 年掛けて仕組み作りを行ってきた。

ポイントやパラメーターの基準としては、全日本ランキング上位に出てきた選手の名前を見て皆が納得できるものを作ることを念頭に考慮した。一例として、バドミントン女子ランキングでは、トップ山口選手や奥原選手、テニス男子ラ

ランキングでは錦織選手や西岡選手、ダニエル選手。このように誰もが納得するパラメーターが必要となる。

パラメーターを次の5つの基準で構成することとした。

平均命中率ポイント	更新型
最高命中率ポイント	
出場ポイント	累積型
規定命中率ポイント	
ファイナル入賞ポイント	

合計：ランキング総合ポイント

このパラメーターを用いて2021年度データを入れるとトラップ種目第1位は井上裕之選手（東京）となる。2021年度の全日本選手権優勝者は2位の田中進一選手（岡山）であるが、井上選手の方が本部公式大会出場回数が多く、常に上位に入っているため、ポイント合算の結果、井上選手の方が上位になる。スキート種目では、全日本選手権優勝者である丸山和成選手が第1位となった。累積ポイントが大会によって評価が違い、全日本選手権ファイナリストは大きく評価されるようになってきている。種々意見はあると思うが、まずはこの基準で暫定的に作業を始めさせていただきたい。

ランキングの基準・パラメーターを開示して試験運用を行い、選手の意見等を吸い上げたい。最終的には強化委員会の選手選考等に反映いただけると有難いが、まずは会員選手のモチベーションが上がり、競い合える楽しみを提供したい。協会の会員でホームページのサポートをしてもらっているシステム業者が居り、そちらに大会成績を送ると自動的に計算される仕組みになっており、運用コストも数万円で競技委員会の予算範囲内で賄える。

柏木常務理事より質問。

配布資料では50位まで表示されているが、運用も50位までとするのか。

事務局より説明。

公式大会に出場している全選手を対象に実施予定。大会に参加している選手が2,000人居れば2,000位までとなる。

議長より質問。

選手の意見を吸い上げると説明があったが、やり方を途中で変更するのか。基本的には一本化しないと纏まらない。誰かの意見によって左右するのは宜しくない。

事務局より説明。

運用後一部変更は有り得るが、様々な選手の意見を聴きながら2年を掛けて構想を練ったので基本は配布資料の通り進めさせていただきたい。

議長が議場に諮り、全日本ランキングの試験運用を原案通り了承。

(9) 佐賀国体について

事務局より報告説明。

去る7月25日、会場市町村である佐賀市担当者2名が来局・面談した。

正規視察や4月の射場検定時に指摘した箇所を改善した旨報告があった。1つは銃砲と装弾の保管場所であるが、選手が密集状態にならないよう改善を求めている、もう1つは女子更衣室の確保だが、双方とも改善された。

保留となっている件が射面の背景がコンクリートで灰色のため標的が見え辛く、グリーン色にするよう指導していたが、現在佐賀県で検討中であり予算の問題と伺っている。

次に、リハーサル大会について地方公式大会をリハーサル代わりに実施したい要望が地元佐賀市、佐賀県クレ射撃協会より上がっていたが、本部としては、ただ地方公式大会に冠を付けて実施してもリハーサルとしての意味は無く、地方公式には無くても国体には有るもの、銃砲・装弾の保管管理、表彰式等式典、団体成績集計の3つを実施しなければリハーサル大会の意義は希薄である旨を指摘し、ブロック本部公式大会の実施を提案していた。

佐賀市自体が大きい市町村ではなく、受け入れ競技も多く人も予算も掛けられないため、佐賀市としては地方公式大会よりも規模が大きくなるのであればリハーサル大会の実施は止めたいという説明があった。過去、JSPOでも取り上げられた問題があるが、リハーサル大会の実施をNFが強制することはご法度とされているため、会場市町村がリハーサル大会の実施を要望した場合にNFが協力することが基本線であり、佐賀市がリハーサルをやらないというのであれば、本番はしっかり打合せをして成功させようとしか言えない。

以上の面談内容を事務局から競技・審査委員長へ報告させていただいた。

もう1点、本部と地元の佐賀県クレ射撃協会との確執が残っていることもあり、国体本番までの2年を掛けて解決に当たりたいと考え、佐賀県協会関係者と連絡を取り合っている状況。少しでも歩み寄れる方向性を模索している。最後に、競技役員編成案を8月末までに佐賀市へ提出しなければならないため、事務局から競技・審査委員長へ確認しながら作業を進めている。

議長より補足説明。

佐賀国体の進捗状況を事務局より説明したが、佐賀県クレ射撃協会との確執については難しい問題を抱えているものの、これから解決に向けて折り合いを付けていきたい。

渡辺常務理事より提案。

佐賀国体を実施される佐賀県射撃研修センターについては、射撃検定で4月に現地へ行き、数点、改善するよう指摘してきた経緯がある。

2024年佐賀国体実施まで後2年しか残されていないため、指摘事項が改善されたか確認のための視察に伺いたい。

議長より説明。

了解した、その際は私自身も同行する。

(10) その他：退会届について

事務局より報告説明。

定款第 13 条では、会員が協会を退会する場合、理事会が別に定める退会届を提出し、任意に退会することができる」と規定されている。

現状、理事会の承認を経た退会届の様式が無いため、理事会の了承を経なければならぬ。配布資料の通り原案を作成した。

議長が議場に諮り原案通り了承された。

9. 審議事項

(1) 第 1 回全国クレ射撃フェスティバル大会について

事務局より議案説明。

国体隔年開催に伴い、表記大会を栃木で実施する事業計画を立て各都道府県協会では予選を実施しているところもある。

競技・審査委員長と確認しながら大会実施要項案を配布資料の通り作成した。期日は 9 月 24 日（土）～25 日（日）、4 ラウンド 100 個撃ちでファイナルは実施しない。会場はニッコー栃木総合射撃場。

47 都道府県協会トラップ 2 名・スキート 2 名の全県参加を MAX とし、選手 4 名のうち女性を 1 名必ず入れることを要件としている。女性がどうしても用意できない協会は男性 3 名参加となる。その場合は 4 名による団体戦の表彰対象から外れるため、個人種目のみで臨んでもらうこととなる。

国体に準拠し、参加選手の個人エントリーではなく所属地方協会から所属選手をエントリーしていただき、参加料については toto くじ助成事業の内示が出たため、各都道府県協会に 2 万円負担とさせてもらった。

表彰対象、奨励金等詳細については配布資料を確認願いたい。本理事会で実施要項原案の承認をいただき、各都道府県協会へ案内送付したい。

丸石理事より質問。

記録プログラムの作成上確認したい。国体の場合は、種目別個人と種目別団体、総合団体があるが、フェスティバル大会は種目別団体は無く、種目別個人とトラップ＋スキートの合計による団体だけで宜しいか。

事務局より説明。

そのように考えている。2 月末に実施した三重とこわか射撃大会同様である。

議長が議場に諮り、第 1 回全国クレ射撃フェスティバル大会の実施要項が原案通り承認され、各都道府県協会へ案内通知する旨を申し合せた。

(2) 定款の施行についての細則の改正について

事務局より議案説明。

去る 6 月 22 日の定時社員総会、第 3 回理事会において役員改選や役職が承認されているが、今回の役員改選で従来と大きく違うところが総務委員会を無く

して総務担当理事を置くことになったため、定款の施行についての細則（以下、定款細則）も並行して改正しなければならない。

総務担当理事は会計入出金に関する事項が業務となり、各委員会の業務執行と業務分担に関する事項、それと総会理事会の開催に関する事項、専門委員会に属さない会議に関する事項、地方協会に対する連絡業務、その他総務に関する事項は本部事務局の業務範疇とさせていただいた。

従来の総務委員会業務内に倫理部門があったが、これは専務理事の業務範疇とすることが前回の理事会で承認されている。

また、医科学部門を医科学委員会に名称変更し、医科学委員会は強化委員会の管轄とした。次にアスリート委員会について、谷本理事に委員長を務めていただくことで先ほど了承いただいたが、アスリート委員会が行う業務が定款細則上明記が無いため、委員会規程も今後作らねばならない。

アスリート委員会についてガバナンスコード上で求められている対応策は3点あり、配布資料の通り原案を作成した。

1つ目はアスリート委員会を設置して、その意見を組織運営に反映させるための具体的な方策を講じること、2つ目は委員会の構成について、性別や競技、種別等のバランスに留意するとともに、委員会の取り扱い事項等を踏まえて、適切な人選を行うこと、3つ目は委員会における議論を組織運営に反映させるために委員会から理事会等に対する答申、報告等を行う仕組みを設けるとともに、アスリート委員会の委員長を理事として選任することである。

ガバナンスコードの対応策を考慮し、アスリート委員会の業務内容は配布資料の通り3点とした。

- 1 会員選手の建設的な意見を取り纏め、組織運営に反映させるために当該案件を担当する専門委員会へ意見具申
- 2 上部団体等アスリート委員会との連携や情報収集
- 3 その他関連する事業に関すること

以上3点をアスリート委員会の業務として定款細則へ明記させていただきたい。定款細則は公益認定の審査時に提出する資料の一部となるため、本理事会で承認されれば、修正した定款細則を公益認定等委員会へ提出することになる。

質疑後議長が議場に諮り、定款細則の改正が原案通り承認された。

(3) その他

柏木審査委員長より提案。

今年度からブロック理事が4名に減ったことで、7ブロックから4ブロックに集約されたが他ブロックの状況があまり把握できていない状況。委員会の編成にあたり副委員長や常任委員を選出しなければならず、従来のように北海道～九州までの各ブロックから競技委員や審査委員を選出いただき、委員会構成の参考にしたい。

議長から説明。

各ブロックには当該年度の担当県協会があるため、担当県協会へ依頼し、競技委員・審査委員を選出いただくことがスムーズと考える。

議長が議場に諮り承認。

事務局より説明。

只今の案件に付随するが、本理事会に出席ただいている理事・監事方々へ就任承諾書を提出いただいているが、同時に委嘱状も送付させていただいている。専門委員会委員長を担当されている方には、例えば、「常務理事兼競技委員長」という委嘱状となる。柏木委員長からの提案通り、専門委員会はまだ委員長しか決まっておらず、委員会が構成できていない。委員長方々から副委員長を選出・報告いただき、本部事務局から委嘱状等の発送を行いたい。

議長が議場に諮り、専門委員会委員長は副委員長の選任後、事務局へ報告することを申し合せた。

議長より、以上で報告事項、議案審議の総てが終了したことを告げ、夏樹副会長より閉会挨拶と出席各位への慎重審議に対する謝辞があり、閉会を宣した。

なお、次回の理事会は2022年10月6日、次々回の理事会は2022年12月6日、双方ともスクエア会議室で行うことを申し合せた。

15時00分 閉会

2022年8月2日

一般社団法人 日本クレー射撃協会

議長 不老 安正  印
(会長 不老 安正 自筆署名)

議事録署名人 相馬 正  印
(監事 相馬 正 自筆署名)

議事録署名人 瀧根 隆幸  印
(監事 瀧根 隆幸 自筆署名)

議事録署名人 藤沼 弘文  印
(監事 藤沼 弘文 自筆署名)